



La Confiance

ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance (コンフィアンス)とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.40

2023年 夏号



Topics

令和4年度 医療連携課 事業報告/
臓器別の多診療科による
カンファレンスを行っています

診療科紹介 医療最前線 〈皮膚科〉

皮膚悪性黒色腫に対する術後補助療法
『免疫チェックポイント阻害剤の適応』

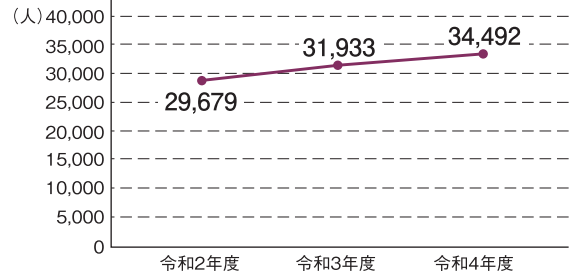
Topics 1 令和4年度 医療連携課 事業報告

令和4年度は34,492件のご紹介をいただきました。たくさんのご紹介をいただきましてありがとうございます。昨年度は新型コロナウイルス感染症の対応をしながら診療にあたったため、先生方にはご迷惑をおかけすることもあったと思います。今年度は患者さんをよりスムーズに受け入れられるよう積極的に取り組んでまいります。当院の「医療連携」をぜひご活用いただきますよう、よろしく願いいたします。

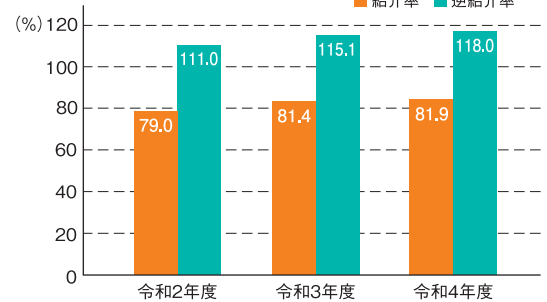
▼診療科別患者数

診療科	令和4年度	診療科	令和4年度	
リウマチ・膠原病内科	615	小児科	2,166	
腎臓内科	646	小児外科	303	
血液内科	967	呼吸器内科	2,038	
糖尿病・内分泌内科	859	呼吸器外科	111	
消化器内科	診察	3,579	精神神経科	315
	内視鏡検査	304	整形外科	2,629
	腹部超音波	30	形成外科	817
内科	233	脳神経外科	462	
循環器内科	2,105	歯科口腔外科	1,394	
脳神経内科	1,470	救急科	1,268	
外科	793	放射線診断科	CT検査	971
乳腺外科	803		MRI検査	370
心臓血管外科	90		核医学検査	174
眼科	2,877		一般撮影検査	0
産婦人科	1,732		骨塩定量	46
皮膚科	1,247	放射線治療科	15	
泌尿器科	1,329	緩和ケア科	22	
耳鼻咽喉科	1,712	合計	34,492	

▼紹介患者数



▼紹介率・逆紹介率



Topics 2 臓器別の多診療科によるカンファレンスを行っています

消化器がんの治療対策

消化器外科・小児外科主任部長 金谷 誠一郎

地域のかかりつけ医の先生方からご紹介いただいた患者さんに、適切な治療を提供します

消化器がんの治療法は、その進行度や患者さんの個別の状況に応じて異なります。一般的には、外科的切除、内視鏡的切除、放射線治療、化学療法、免疫療法と多様な治療法があります。近年ではこれらの治療法を組み合わせる行う集学的な治療の重要性も高まっており、治療が複雑になってきました。このような多様かつ複雑な治療法から、患者さんにとって適切な治療法を選択するためには、各治療法に精通した専門家が集まって議論する必要があります。

当院では、上部消化管(食道がん・胃がん)、下部消化管(結腸・直腸がん)、肝胆脾(肝がん・胆道がん・膵がん)の各臓器別にカンファレンスを行っています。

また、当院では各診療科ともに最先端の治療を実施しており、消化器外科では手術支援ロボット「da Vinci(ダヴィンチ)」の最新鋭機Xiを用いた手術を、消化器内科では従来は外科的治療の対象であった消化管の早期がんや肝臓がんに対し、内視鏡的切開剥離法(ESD)やラジオ波焼灼術(RFA)といった治療を、腫瘍内科では最新の免疫チェックポイント阻害剤によるがん免疫療法やゲノム医療を、放射線治療科ではIMRT

(強度変調放射線療法)などの高精度放射線療法を積極的に行っています。これら最先端の治療を実施する診療科が共同でチームを結成し、消化器がんの治療に取り組んでおり、定期的カンファレンスを行うことで、患者さんに対して適切な治療を提供するための協力関係を構築しています。

地域がん診療連携拠点病院として、これからも患者さんに質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。消化器がんの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ当院にご相談ください。



▲カンファレンス風景

皮膚悪性黒色腫に対する術後補助療法

『免疫チェックポイント
阻害剤の適応』

皮膚悪性黒色腫に対する術後補助療法として、
免疫チェックポイント阻害剤が使えるようになりました。

昨年2022年の10月より、悪性黒色腫に対して免疫チェックポイント阻害剤 (ICI) であるペンブロリズマブの術後補助療法が適応となりました。

ICIは、皮膚科領域では悪性黒色腫に使用されます。ICIの主な作用機序として、免疫システムを活性化し、腫瘍細胞に対する免疫応答を強化することです。

ICIの一つであるペンブロリズマブは、プログラム細胞死1 (PD-1) と呼ばれるタンパク質の機能を阻害することで効果を発揮する抗PD-1抗体です。PD-1は、普段の状態では免疫応答が過剰とならないようブレーキをかける役割を果たしていますが、腫瘍細胞によって悪用されることがあります。腫瘍細胞がPD-1と結合するタンパク質を過剰に発現し、腫瘍細胞に攻撃する応答にブレーキをかけることにより、免疫システムからの攻撃を逃れることができます (右図1)。

ペンブロリズマブ (以下抗PD-1抗体) は、PD-1とPD-L1の相互作用をブロックすることで、腫瘍細胞が免疫システムから逃れるのを防ぎます。これにより、免疫システムは腫瘍細胞を標的として認識し、攻撃する能力を回復します (右図2)。抗PD-1抗体によるPD-1/PD-L1の阻害は、腫瘍細胞に対する免疫応答を活性化し、腫瘍の成長を制御する効果があります。

抗PD-1抗体は、悪性黒色腫以外にもさまざまながんの治療に使用されています。具体的には、非小細胞肺癌、腎細胞がん、頭頸部がん、膀胱がん、胃がん、肝細胞がんなどが挙げられます。抗PD-1抗体は、従来の化学療法や放射線療法に比べて、がん治療における生存率の向上や長期的な効果の維持が報告されています。

抗PD-1抗体には通常の抗がん剤とは異なった副作用があります。免疫応答が正常な組織に向けられることによる自己免疫疾患を特徴としており、皮膚障害や自己免疫性肝炎、炎症性腸疾患や間質性肺炎、その他膵炎や腎炎などが報告されています。これらのICIに起因した免疫関連副作用 (irAE) は、治療の中断・中止であったり、ステロイドや免疫抑制剤を投与したりするなど管理されます。また、抗PD-1抗体は免疫システムを活性化するため、既存の自己免疫疾患の患者では症状の悪化や新たな自己免疫疾患の発症が報告されています。治療開始前に既存の自己免疫疾患の有無を確認し、皮膚科だけでなく、多くの科と連携した慎重な監視と管理が必要です。

大切なことは、進行期の治療ではなく、術後補助療法であるためirAEを含め、治療による過剰な副作用により一層注意しなければならないことです。当院では患者さん、ご家族含め個別のリスク評価と管理計画が重要と考えています。ICIによる治療関連以外にも、原疾患の症状や検査スケジュールなど、よく話し合って治療を決定、施行しています。

Profile

皮膚科部長
八木 洋輔



2005年広島大学医学部卒業後、2013年京都大学医学博士取得。京都市立病院、京都大学病院で研修後、天理よろづ相談所病院、福井赤十字病院に赴任。2021年4月より大阪赤十字病院勤務、2022年4月より現職。

図1 PD-1刺激による免疫細胞の不活性化
(MSDホームページより引用)

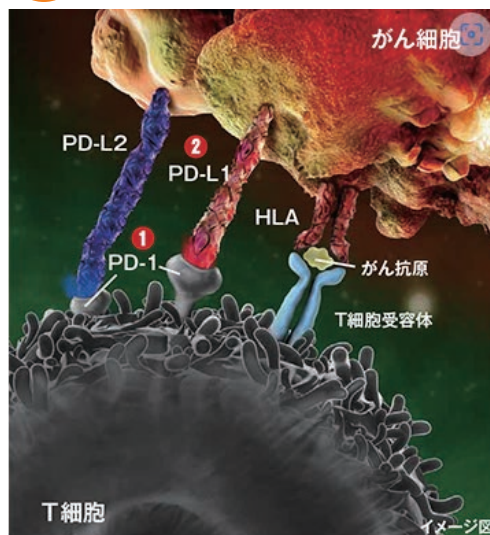
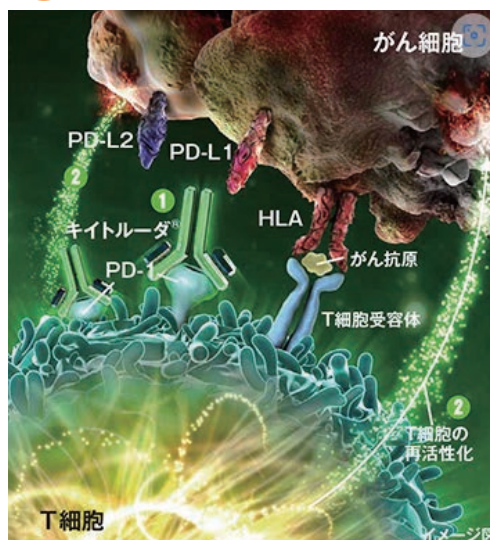


図2 抗PD-1抗体作用による免疫細胞活性化の回復
(MSDホームページより引用)



第30回 大阪赤十字病院懇話会報告 ～4年ぶりに懇親会を開催しました～

令和5年6月17日(土)にハイブリッド方式で懇話会を開催しました。現地に38名、WEBで26名の先生方にご参加いただきました。また、今年は講演会后、4年ぶりに懇親会を開催することができました。久しぶりに地域の先生方と直接お会いし、意見交換をすることができ、大変貴重な時間となりました。



▲講演会

次年度も6月の土曜日に開催を予定しています。より多くの地域の先生方のご参加をお待ちしています。



▶懇親会

日赤オンライン医学講座

地域の先生方や一般市民の皆さま向けにオンラインでの医学講座を行っています。申込不要でお好きな時間にご視聴いただける10～20分程度のミニ講座です。

7月開催分

「重症喘息の治療について」

呼吸器内科 医師 石川 遼一

「食中毒について」

感染管理係長/感染管理認定看護師 小谷 奈穂

※8月は、入退院支援課の相談員、呼吸器内科部医師による講座を予定しています。

- 当院ホームページから視聴できます。
- **YouTubeによる動画配信** (公開より1年間視聴可)
- 月に2回、原則毎月1日・15日に新規動画を配信。

※ 休日の場合は翌開庁日です。

https://www.youtube.com/playlist?list=PL00syUBOnjajkeNHmZol7BsrNmCE3g_S8

ぜひ、
ご覧ください!



医療機関向けLINE公式アカウント

当院のトピックスやセミナー・講演会、医療連携に関わる情報をお送りしています。



「友だち登録」は
こちらから



ぜひ、
ご登録ください!

Information

講演会・イベントのご案内

令和5年8月～10月

大阪赤十字病院 小児科 クリニカルカンファレンス

- ◆ 日 時 / 第337回 9月28日(木) } 15:00～16:30
第338回 10月26日(木)
- ◆ 場 所 / 大阪赤十字病院 4階 第4会議室 + WEB (Zoom)
- ◆ 主 催 / 大阪赤十字病院 小児科
- ◆ 対 象 / 医師、医療関係者
- ◆ 参加費 / 無料

※開催方法や詳しい演題名・演者は発表月の第1週に決定しますのでお問い合わせください。

人事異動紹介

令和5年5月～7月

- 新任** ● 5月1日付【産婦人科部】川田 悦子(医師) ● 6月1日付【消化器外科部】白井 久也(医長) / 【麻酔科・集中治療部】櫻井 洸太郎(非常勤嘱託医師) ● 7月1日付【皮膚科部】山田 瑞穂(専攻医) / 【小児科部】榎 辰也(専攻医)
- 退職** ● 5月31日付【麻酔科・集中治療部】三好 健太郎(非常勤嘱託医師) ● 6月30日付【皮膚科部】中野 宏明(専攻医) / 【整形外科部】湯浅 友寿里(医師) / 【小児科部】難波 かほり(専攻医) ● 7月31日付【皮膚科部】武内 直生(専攻医) / 【小児外科部】高松 由布子(医師)

患者さんの紹介手順

1 紹介状(診療・検査申込依頼書)に必要な事項をご記入の上、**FAX(24時間対応)**にて送信してください。記入事項をもとにカルテを作成しますので、内容は正確にご記入ください。

● 紹介状は、当院専用の様式(書式はPDFとWord)があります。お電話いただければ専用の封筒とともに郵送させていただきます。

医療連携課 直通 TEL:06-6774-5127

● または、当院ホームページから、ダウンロードできます。

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

※ 紹介状は、当院専用のものでなくても結構です。

2 受付後、ご来院の日時を設定し、折り返し**予約通知書を迅速にFAXにて返信**いたします。ただし、17:00以降の受付分は、受付開始後にできるだけ早くお返事をいたします(診療科によってはお返事に時間がかかるものがあります)。患者さんに、封筒に入れた**紹介状(診療・検査申込依頼書)**と、当院から送信された**予約通知書**をお渡しく下さい。

3 患者さんをご紹介いただく際、CT・MRIなどの画像データがございましたら、お手数ですがご提供をお願いいたします(画像データのご持参忘れや窓口でお出し忘れになるケースがあり、患者さんに取りにお戻りいただいたり、初診日が診察のみで終わってしまったりするなど、ご不便をおかけすることがあります)。

発行

大阪赤十字病院 医療連携課

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2023年7月発行

■医療連携課のご案内

受付時間 / 平日8:30～20:00、土曜8:30～13:00

休 診 日 / 日曜・祝日、12月29日～1月3日(年末年始)、5月1日(本社創立記念日)

連 絡 先 / (医療連携課 直通) **TEL:06-6774-5127**

FAX:06-6774-5126